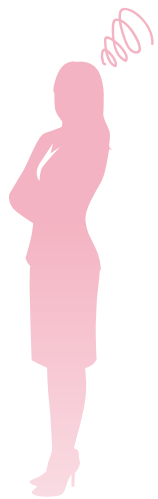


女性が抱える

健康問題とその予防



第8話

緊急避妊法ってご存じですか

避妊しなかった、避妊に失敗した、

レイプ被害に遭ったなどの事態に際して72時間以内に薬を飲む、あるいは妊娠経験のある女性では120時間以内に銅付加子宮内避妊具または黄体ホルモン放出子宮内避妊システム（ミレナ®）を挿入することで、妊娠を回避する最後の避妊手段を緊急避妊法（ECC）と言います。

広く知られている緊急避妊法には、性交後72時間以内に黄体ホルモン製剤の一種であるレボノルゲストレル錠1.5mgを1回服用することで妊娠の可能性を90・8%減少させる「緊急避妊薬」があります。

緊急避妊薬を服用することで避妊ができる仕組みとしては、一般的には「排卵を抑制する」「排卵を遅らせる」ことが知られています。

女性の性器内に射出された精液中の精子は、3日から5日ほど生存します。

卵子の生存時間は8時間から24時間です。排卵の翌日から妊娠しませんが、排卵が抑制されれば受精には至りません。排卵が1週間ほど遅れることには排卵が1週間ほど遅れることになり、その後の性交で妊娠する危険性が高まります。そのため、次の月経まで性交を待たないカップルに対しては、緊急避妊薬を服用した翌日から低用量経口避妊薬（ピル）を飲んでもらいます。ただし、月経の初日から飲む通常の方法とは異なり、服用後7日間はピルによる避妊効果を期待できないことから、コンドームをバックアップとして使ってもらいます。しかし仮に、そのコンドームの破損や脱落などがあつた場合には、緊急避妊薬を繰

り返し服用してもらわなければなりません。

過去72時間以内の性交に対する緊急避妊薬の服用に伴う妊娠率（失敗率）は0・7%。その一方で、1年間ピルを服用した場合の妊娠率は0・29%というわが国の調査結果があります。緊急避妊薬の妊娠率がピルに比べていかに高いか、ご理解いただけるでしょうか。ですから、緊急避妊をゴールではなく、より確実な避妊法を選択するスタートにしてほしいと願っています。「どこに行けば、緊急避妊薬を手に入れることができますか」という切実な声が寄せられます。図の2次元コードを読み取ってみてください。このサイトに掲載されていない産婦人科でも処方を受けられます。最近では、薬局での販売が検討されています。何はとも

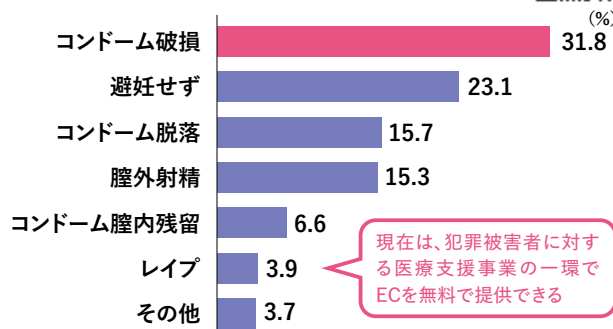


[執筆者]
北村 邦夫
きたむら くにお
日本家族計画協会 会長

自治医科大学を1期生として卒業後、群馬県庁に在籍する傍ら、群馬大学医学部産科婦人科学教室で臨床を学ぶ。1988年から日本家族計画協会クリニック所長。東京都予防医学協会理事、日本母性衛生学会常務理事。2018年より現職。

緊急避妊外来受診理由 (N=485)

(日本家族計画協会クリニック2005年4月～2013年3月末)



現在は、犯罪被害者に対する医療支援事業の一環でECを無料で提供できる

あれ受診する医療機関が決まったら、
①緊急避妊の受け入れが可能か
②診療時間や予約が必要かなど受診のルール
③使用する緊急避妊薬について
④費用
—などの確認も忘れないでください。